

◆『アジア・キリスト教・多元性』第19号第2集をお届けいたします。

本研究雑誌は、「アジア・キリスト教・多元性」研究会の研究活動報告論文集として刊行され、本研究会の前身となる旧「アジア・日本のキリスト教と宗教的多元性」研究会の研究ジャーナルから数えて通算して第19号（20冊）を迎えました。第19号は、昨年より世界的に広範に拡大した新型コロナウイルス感染への対応などの理由で、第18号への投稿が間に合わなかった研究会メンバーのために、第1集と第2集の二つに分けて刊行することになりました。今回刊行のものは、第19号第2集です。執筆の方々はもちろん、研究会での議論に参加いただいたメンバーの方々、特に、編集担当者に全面的な協力をいただくことによって、無事に刊行することができました。この場をお借りして、心よりお礼を申し上げます。

本研究論文集は創刊号から第13号までは、必要部数に限り、冊子体での刊行も行ってきましたが、第14号からは、冊子体なしの完全な電子ジャーナルとして、研究会ホームページと京都大学学術情報リポジトリにおける公開ということになりました。電子ジャーナルという刊行形態であるため、今回のような変則的な刊行も、比較的容易に行うことができました。

◆2020年度の研究会の活動の詳細については、第2集の「研究会の活動内容（2020年度）」また研究会ホームページに記載された通りですが、先に説明しました新型コロナウイルス感染拡大への対応として、多くの学会や研究会と同様に、本研究会でも、4月から7月までは、毎月1回の研究会を中止し、8月からは、オンライン（zoom）で研究会を開催してきました。今後、研究会の実施形態については見通しが立たない状況が続くものと思われませんが、オンラインなどの形態で柔軟に研究会を実施したいと考えています。ご協力をよろしくお願いいたします。オンラインでの研究会の実施は、新型コロナウイルス感染拡大への対応という理由からでしたが、オンライン研究会には海外在住の方をはじめ遠方の方々に参加いただくことができました。この点で、オンライン研究会は、今後の研究会の実施形態として積極的に位置づけることができるものと思われま

◆本研究会の総会は、2021年5月1日にオンラインで開催される予定です。2021年度で、本研究会も20年目を迎えますが、総会では、2021年度の役員などの決定に加えて、研究会の活動のあり方についても協議されることとなります。研究会を担当する者として、研究会のいっそうの活性化を期待しております。

◆研究会メンバーの2021年4月から動向としては、研究担当のわたくし自身のことになりますが、京都大学大学院文学研究科から、関西学院大学神学部へ所属がかわります。また、オンラインでの研究会の実施以降も、研究会には新しいメンバーが加わりました。総会で、自己紹介をお願いする予定です。

◆研究会メンバーが、刊行した著書を紹介します。いずれも、課程博士論文をもとにして執筆されました。神山美奈子『わたちの日韓キリスト教史』（関西学院大学出版会、2021年3月）、藤本憲正『ハンス・キュングと宗教間対話——人間性をめぐるその神学的軌跡』（三恵社、2021年3月）。

◆今後とも、本研究会のために、各方面からのご協力を賜りますよう、よろしく、お願い申し上げます。

2021年3月
研究会・研究活動担当
芦名 定道